



第34号

(年2回発行)

発行所
喜多流大島能楽堂〒720-0814
広島県福山市光南町2-2-2
TEL 084-923-2633
FAX 084-923-8730
noh-oshima.com

初能の思い出

能楽シテ方 喜多流職分

大島 輝久

能楽師にはその時々で節目となる舞台があります。初能もその一つです。私が初めて能を舞ったのは平成元年、大島家三代能と銘打った催しで「箆」を勤めました。当時十二才。ちょうど子方が出来なくなった頃の私を、舞台から遠ざけまいと祖父の久見が計画したのだと思います。

「箆」は謡も型所も多く初能で勤めるには手強い曲です。当時は考えもありませんでしたが、今思えば教える側は大変だったろうと思います。本番が近づいてくると祖父とのマンツーマン稽古が連日続きました。子供の稽古は手取り足取りですから祖父も毎回汗だくです。常は通して一回の稽古だったのが、ある時期から二回になる事が多くなってきました。一曲を舞い終えて稽掛りを通り幕に入る頃、稽古で太刀の代わり

に使う竹の棒を舞台にいる祖父が後ろから投げ転がして来ると、それがもう一回初めから稽古の合図でした。毎回、稽掛りを歩みながら「お願いだから棒を投げて来ないで！」と念じていました。大概その祈りは通じませんでした。

肝心の本番の舞台の事は見所が満員であった事以外、あまり記憶がありません。恐らく必死だったのでしょう。ただその夜に今までに感じたことのない高揚感が身体に残って、なかなか眠りつけなかった事をよく覚えています。『シテを勤めるといふのは特別な事なんだ。』という事だけはその時に分かりました。

本年十二月二十三日に祖父の十三回忌追善能を催す事になりました。六年前の七回忌追善能では私が「道成寺」を、今度は姉が「道成寺」を披かせて頂く事になりました。「道成寺」の披きは最終的には襲い来る重圧との戦いですから、姉にはそこ存分に格闘してもらいたいと思います。

又、この機会に息子の伊織に初能「経政」を勤めさせる事にしました。八才での初能となる私より遥かに早く能を舞う事になります。

舞わせると決めた以上は教える側が何とかしなければなりません。それが私なりの祖父への供養にもなるかと思えます。あの時から二十八年。攻守所を変えて、今度は私が竹の棒を投げ転がしてやろうと思っています。



舞躰子「賀茂」大島輝久 (2016.7.31) 三和の森光信寺

- P2 松山と能 金子敬一郎
- P4 岡山金春会から桐英会へ 梶谷英樹
- P6 この福山の開祖たる水野勝成とは我なり 高橋秀年
- P8 新作能「福山」初演会 成功してよかった 参加小学生

松山と能

シテ方喜多流職分

金子 敬一郎

かね こけいいちろう
金子敬一郎氏

シテ方 喜多流職分

国総合認定重要無形文化財

1968年生れ 松山市出身。

喜多流職分 金子匡一の長男。

父及び 故喜多実十五世宗家、塩津哲生に師事。

埼玉県戸田市在住。



猛暑の中でこの原稿を書いています。紙面になる頃には暑さも和らいでいることと思います。大島家には先々代金子五郎の頃より、父、そして私とひとかたならぬお世話になっており、そのご縁にて今回このおしま草紙に乱文乱筆を載せていただくことになりました。今回は私の出身地でもあります、愛媛県松山市についてということなので松山と能の歴史について書かせていただきます。

松山は人口五十万ちよつとの地方中核都市で、中四国では広島・岡山につぐ規模です。しかし名物といえば道後温泉と松山城。ほかには？と聞かれたところで、天災が少なく気候も温暖で住みやすいかな？というぐらいの鄙の住まいです。しかしながら「坂の上の雲」で有名な秋山兄弟や正岡子規など、歴史の節目に名を残した人々を輩出しています。そして今の能楽界にも影響を与えた人物も数多く現れました。

能楽は江戸時代には武家の式楽となり、松山藩でも初代藩主松平定行のころから能が催され、松山城二の丸・三の丸に舞台がありました。流派については幕府が観世流を筆頭としたので松山藩は遠慮してシテ方には喜多流をとり、ワキ・下掛宝生流、大鼓・葛野流、小鼓・幸流、太鼓・観世流、笛・森田流、狂言・大藏流八右衛派としたと記録に残っています。

明治になって松山藩が廃藩となった時、高浜虚子の父・池内信夫や正岡子規の大叔父・歌原良久らが、藩所蔵の能面と能装束の散逸を防ごうと動きまします。面装束を払い下げてもらおう事にはなりませんが、その資金調達に難航します。そこで藩祖をまつる東雲神社に面装束を寄贈し、代金返済の代わりとして東雲神社で能の奉納が始まりました。これが、松山の名物行事「東雲さんのお能」のはじまりです。

「東雲さんのお能」は、戦前まで、松山の能楽界の最大のイベントとして欠かさずに演じられてきました。後に中央で活躍し、十四世喜多六平太郎とともに能楽界初の人間国宝になった大鼓の川崎九淵師や、ワキ方の宝生弥一師も、東雲能の舞台で演じていらっしゃいました。また、池内信夫の三男で虚子の兄にあたる池内信嘉は上京して、沈滞ぎみの中央能楽界の

改革も進めました。現在の日本能楽界の根幹には、松山の能楽界があると
言えます。

金子家は初代の金子亀五郎が東雲能の演能で認められ、上京して中央に
て活躍しました。二代目の五郎は疎開を経て松山に戻り、松山能楽界の復
興に尽力し、そのちも松山を拠点としました。

このような伝統、そしてお金が貯まれば趣味に使うと言われる伊予人
気質もあるでしょう。田舎の四国でありながら、全国的に見ても能楽を趣
味とする人が多いように思われます。当家にある稽古舞台も元はといえ
五郎の弟子である四国八十八箇所六十一番札所の香園寺の住職が、病膏
の末に作った舞台の板が保管されていたのを、譲り受けたものです。また
松山は囃子を習う方が多いのも特色で、一日の会で舞って、謡って、打っ
て、吹いてなどという方もおられ、そのバイタリテイには頭が下がります。

斯様に能楽を「する」ことにかけては環境の整った松山ですが「観る」
ことについては、薪能以外に定期の会がありませんでした。そこで父・匡
一は東京・京都などからシテ方・三役をお呼びして一流の能楽を観てもら
おうと昭和六十年より「松山喜多流能」を始めました。毎年七月の第二日
曜日に催していて、今年で三十一回目となり、また道後温泉大和屋本店の
能舞台が二十周年になった事も契機となり今回、「安宅」という大曲を披
かせていただきました。

ここ二十余年のネットの普及や流通の変化等により、物質面で中央と地
方の差は少なくなりました。しかしながら、今の日本は首都圏に三七〇〇
万人の人口と国内のGDP十五%を持ち、それに伴い文化的催しも首都圏
に集中しています。それにより地方都市での催しは集客・費用ともに困難
な状態です。しかし流通IT革命によって物質が平均的に世の中に溢れた
今、ライブ、つまり生身での体験が欲せられているのもまた現実です。変
化の激しい今の世の中、能楽界もその立ち位置を模索しながら進んでいま
す。その中で地方での能楽普及というものに対して、その一端を担ってい
ければと思う次第です。



能「安宅」シテ 金子敬一郎 子方 大島伊織 (2016.7.10) 大和屋本店
(右側より) ツレ 佐々木多門 大島輝久 佐藤 陽 谷友 矩 狩野祐一 友枝雄太郎 金子龍晟 塩津圭介

岡山金春会から桐英会へ

金春流太鼓方 梶谷英樹

岡山金春会は祖父梶谷尚太郎が昭和三十四年

八月に発足いたし、太鼓のお稽古の後にそうめんを食べる会として始めましたので、「そうめん会」とも言っていました。昭和三十九年より二十二世金春惣右衛門先生に毎年当地までお運び頂いてご指導を賜るようになり、昭和四四年からは岡山後楽園において恒例の会となりました。祖父亡きあと平成五年より父義男が主宰となり継続してまいりました。

平成二十六年三月に金春惣右衛門先生が逝去され、同年八月に岡山後楽園能舞台にて追善会を行いました。故金春國和先生(二十三世家)、現宗家の金春國直先生にもお出ましたいただきました。岡山金春会はこの会をもって最後の会と致し、その後を私が主宰します桐英会が引き継いでおります。

桐英会は二十二世金春惣右衛門先生に名付けていただき、書生中ではございましたが平成十

年より活動を開始いたしました。東京永福町、

横浜能楽堂、横須賀市久里浜で門下生のお稽古をいたしております。お正月に打初め会、

八月に岡山後楽園で浴衣会、三年に一度国立能楽堂等で大会をいたしております。

また、岡山の方に少しでも能楽に親しんでいただきたいと云う思いもありまして、近年は岡山後楽園が開催いたしております岡山後楽園幻想庭園に組み込んでいただき、桐英会別会「能の夕べ」(玄人会もいたしております。「能の夕べ」には毎年、大島衣恵さまにもご出演いただき、能の夕べ翌日開催の浴衣会には大島家より三姉妹にもお手伝いをしていただき大変感謝いたしております。

実は太鼓の初舞台より仕舞の初舞台が先でした。岡山在住の観世流、有松栄次先生に四歳より仕舞を習っており、十番以上舞いました。その中でも兄と「土蜘蛛」の仕舞をした

梶谷英樹氏

能楽太鼓方 金春流

1970年生れ。岡山市出身。

舞囃子「合浦」、6歳にて初舞台。

「石橋」「乱」「望月」「道成寺」を抜く。

22世金春惣右衛門、故祖父梶谷尚太郎に師事。

東京都在住。



時、剣を持つて舞ったのが子供心にとってもかっこよく楽しかったのを記憶しています。

太鼓の初舞台は六歳の時、祖父が主宰いたしておりました岡山金春会にて舞囃子「合浦」にて初舞台を勤めました。後に内弟子に入れていただく二十二世金春惣右衛門先生にお稽古、お後見をしていただきました。祖父、父、叔父、兄も太鼓をやっておりましたので、仕舞の時とは違い周りの目もあり、とても緊張したのを覚えています。以後小学校、中学校、高校と惣右衛門先生と祖父に稽古をしていただきました。

二十一歳の時、二十二世金春惣右衛門先生の内弟子(書生)に入れていただきました。当初、何もわかりませんでしたので日々全てが勉強の毎日でした。お稽古も子供の頃とは違い大変厳しく、特にご自宅でのお稽古は何度も逃げ出し、たくなつた事を覚えております。

また、晩年は先生も痛風や膝の調子の悪化もあり能一番をお座りになるのが困難になられましたので、前シテ(能の前半部分)を私が代わりに正座いたしておりました。先生がお勤めになられる曲は大曲が多かったので大変勉強になりました。特に、「姨捨」は何度も本後見をさせていただきました。また、「朝長」の十六懺法の後見を二度、故國和先生とさせてください。こととはとても感謝いたしております。國和先生が懺法をはじめ勤められた時も惣右衛門先生

と私でお後見させていただき、とても光栄に思っております。

内弟子も長く勤めておりますとその日先生が舞台にお使いになられるお道具もわかるようになり、お舞台の用意をする際にはお道具、その他すべてらせていただけました。惣右衛門先生も高齢でしたので、私の次に内弟子をお取りになれることはありませんでした。

ご宗家のご自宅には今でもよく伺いますが、奥様やご家族の方にも書生当初より大変お世話になりました。先生のご存命中には食事にも度々連れて行っていた、また私生活の面でも大変かわいがっていただきました。内弟子入門してから二十二年間、惣右衛門先生に能楽師としてだけではなく多方面に渡り育てていただき大変感謝いたしております。長いと思われるかもしれませんが大変貴重で充実した勉強時間でした。

國和先生にはこれから色々ご指導いただきました。思っております。矢先にお亡くなりになられました事、とても悔しく残念に思っております。今後は現宗家國直先生にご指示を仰ぎ太鼓方金春流として日々精進して頑張っ

て行きたいと思っております。東京在住ではございますが、今後も岡山の能楽を盛り上げていきたいと思っております。



能「小鍛冶」白頭シテ 大島衣恵 ワキ 江崎欽次郎 (2016.6.19) 大島能楽堂

太鼓 梶谷英樹 大鼓 谷口正壽 小鼓 久田舜一郎 笛 森田保美

「この福山の開祖たる水野勝成とは我なり」 全身に鳥肌がたった。



福山城 水野勝成公の銅像の前にて

一般社団法人 勝成塾
代表理事

高橋 秀年

一年ほど前、大島能楽堂で大島泰子さんから「水野勝成公と阿部正弘公のおふたりが時空を超えて現れるという新しい能をしようと思っっているのよ」とお話しをうかがったときも鳥肌がたった。興奮して拍手をしたことをはつきりと覚えてる。

あの日から「新作能 福山」の初演会の日を心待ちにしていた。水野勝成公と阿部正弘公が同じ舞台に立ち、朱雀神が舞う舞台。気高く、画期的で魂を揺さぶられた。まだ見ていたい、また見たい、もつと見せたい。目に涙をしながら大きな拍手をおくった。そして、時の変化を感じた。「福山の恩人は水野勝成公だ、いや、阿部正弘公だ」と口角泡を飛ばしている時代は終わった。光り輝く朱雀神が「融合せよ 新しい時をむかえよ」と福山の空を高く舞った。

私は、誠之館高校を卒業して上京。大学卒業後は損害保険会社に入社し二十年間、全国を転勤した。そして、十年前に福山に帰ってきたときの「違和感」を今も忘れることはない。それは、私が転勤した各地（高知、静岡、盛岡、仙台、博多）の人と福山の人の自分のまちに対する思いにあまりにも差がありすぎることであった。私が転勤したまちの人々の多くは自分のまちの自慢話を堂々とするばかりか、時には「このまちで暮らせることを幸せに思いなさいよ」という圧をかけてくることもあった。それくらい自分のまちに誇りを持って生きている人が多かった。

しかし、福山に帰ってみると、「福山には何もない」「福山は田舎」と、ほとんどの大人たちが口にする。異様に感じた。こんなことでは、福山の子どもたちが誇りを育むことは難しいだろう。何というまちだ？なぜだ？と考えながら「なんとかせにやあいけん」という思いから、福山の活性、福山のまちづくりを考えるいろいろな取り組みを始めた。その中で、福山の活性、まちづくりの最も重要なのは、福山のアイデンティティ（精神的支柱）を育むこと。そしてそれを誇ることにしよう。そう思った。誇りの再構築によって福山に生まれたこと、育ったこと、暮らしていることを誇りに思う「福山人」を育むことだと考えるようになった。

*私が考える福山のアイデンティティーは水野勝成公だ。そのためには、まず、大人が福山の歴史、文化を学ぶこと(知ること)だ。知らないと誇ることはできない。そして、その学んだこと(知ったこと)を子どもたちに日ごろから語り、伝えること。この積み重ねが福山のアイデンティティーをつくりあげていくことになる。歴史を学ぶのは誇りを持って未来を創造するためだ。「誠は天の道なり。これを誠にするは人の道なり」教育の神様 阿部正弘公がきちんと示してくださっている。「福山は何もない」は絶対に口にしてはならない。

さて、六年後、福山城は築城四百年を迎える。福山のまちができて四百年となる。福山の大きなターニングポイントになると考える。先人が、国宝明王院五重塔をつくったときのように、福山城の城開きを「とんど」を担いで祝ったときのように、戦後復興の象徴としてばらを植え始めたときのように、「福山人」は再び自発的に行動しなければならぬ。私も力を注いでいきたい。「誠」の教へ行き渡り。学ぶ若木は聡敏に。久しき代々こそめでたけれ」勝成公、正弘公ともに今は神となり、聡敏神社、阿部神社で福山のことを見守ってください。ありがたいことだ。朱雀神とともに会場に現れた水野勝成公と阿部正弘公の声が聞こえた「よろしく頼むぞ」。

福山の歴史に残すべきとても価値のある福山市市制施行百周年記念事業を成し遂げられた大島家のみなさまに心からの敬意を表します。



新作能 福山 初演会

ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ 大ホール
平成二十八年七月十六日(土)午後二時開演

二挨拶 福山市長 羽田 皓

連吟 靱 浦 青木佑太郎 伊藤咲夢 上野ももこ 大隅智也 大本 楓
掛谷 新 掛谷莊太郎 葛原夢依 高田真妃 道家菜穂子
藤本 祐希 柘田健伸 柘田七虹 吉田美緒

連吟 靱のむろの木 猪原 翼 澤田 澄 羽原依里 深見日南子
藤井祐輔 村田真遠 森 直樹

対談 百年先を見据えた町づくり、人づくり

野村萬斎 大島輝久 司会 渡辺敬忠

(休憩二十分)

狂言 蝸 牛 山伏 野村萬斎

主 深田博治
太郎冠者 高野和憲
後見 野村裕基

花の精 吉原 颯太

花の精 廣瀬 心菜 名越 菜莉

花の精 桑田 煌斗 竹内晴香

花の精 大島 伊織 大島薫子

シテツレ 阿部正弘の宣 大島 衣忠

後シテ 朱 雀 神 大島 輝久

前シテ 水野勝成の宣 大島 政允

新作能 福山

ワキ 恭人 江崎欽次朗 大鼓 谷口 正壽 太鼓 梶谷 英樹
小鼓 久田舜一郎 笛 森田 保美

後見 長田 驍 園尾 英樹 吉田 道弘
長田 輝 原田 寛太郎 金子 敬一郎
地謡 奥田 浩平 長島 茂
藤井 祐輔 狩野 了一
森 直樹 佐々木 多門

午後四時二十分頃終了予定

ぼくは、リーデンローズで鞆浦をうたいました。リーデンローズでは思ったより声がひびいてすごい声がひびくなど、びっくりしました。本番の前は、しっばいしたらどうしよう、たくさん人がいたらはずかしいな、まちがえて笑われたらどうしようなどと、思ってしまったものすごくきんちようしました。でも、本番になると、がんばろう、きつとできる、などと、思ってたあまりきんちようしなくなりました。そしていつも練習しているようにできて自分の中では、成功したと思えました。うれしかったです。これからも色々なことにチャレンジしていきたいです。

樹徳小学校五年生
青木佑太郎

新作能「福山」初演会
成功してよかった

福山市市制施行100周年記念事業
新作能「福山」初演会

2016年7月16日(土) 14:00 開演
ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ 大ホール



連吟「鞆浦」福山市内在住小学生



連吟「鞆のむろの木」福山市立大学生他

Phot by
David Surtasky

対談

「100年先を見ずえた町づくり、人づくり」



司会・渡辺敏恵

野村萬斎

大島輝久

狂言「蝸牛」



太郎冠者 高野和憲

山伏 野村萬斎

南小学校六年生
廣瀬心菜

私は、先生にこの能にぜひ参加したいという気持ちや伝え、参加することができました。初めての稽古では新作能「福山」の紙しばいを読んでもらったり、すり足を練習してドキドキのスタートでした。二回目の稽古では扇の持ち方や動作を教えてもらい難しかったです。初めて衣装を付けた時、長絹や花冠は豪華でびっくり。舞ってみると扇の持ち方が難しかったです。本番ではステージが広くライトもまぶしく緊張しました。終わった後は達成感があり、見て下さった方に良かった、感動したとほめていただきました。六年生では、能の授業があるので今回の経験を生かしながらあります。貴重な体験をさせて下さった大島能楽堂のみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。

新作能「福山」



前シテ・水野勝成の霊 大島政允 ワキ・岡崎よりの旅人 江崎欽次郎



花の精



後シテ・朱雀神 大島輝久 ツレ・阿部正弘の霊 大島衣恵



能「草紙洗小町」シテ 大島政允 (2016.4.17) 大島能楽堂 撮影 池上嘉治
子方 大島薫子 ワキ 江崎欽次郎
ツレ 松井 彬 佐藤 陽 松井俊介 粟谷充雄 粟谷浩之
大鼓 亀井広忠 小鼓 飯田清一 笛 竹市 学





能「小鍛冶」白頭 シテ 大島衣恵 ワキ 江崎欽次郎 (2016.6.19) 大島能楽堂
太鼓 梶谷英樹 大鼓 谷口正壽 小鼓 久田舜一郎 笛 森田保美



能「葵上」シテ 大島衣恵 (2016.7.31) 三和の森光信寺
大鼓 守家由訓 小鼓 久田舜一郎

演能ご案内

2016年

開催日	催し名	開演	会場	鑑賞料	演目
9月18日(日)	第247回 大島能楽堂定期公演	12:30	大島能楽堂	年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能 「浮舟」 大島衣恵 狂言 「鳴子遣子」 山口耕道 能 「熊坂」 松井彬
10月16日(日)	福山総合文化祭 秋の会	13:00	大島能楽堂	無料	仕舞・素謡
11月 3日(祝)	後 楽 能	12:00 14:00	岡山後楽園能舞台	鑑賞券 4,000円 学生券 1,000円	舞囃子・仕舞・素謡 狂言 「灌漑川」 茂山千三郎 能 「土蜘蛛」 大島輝久
11月17日(木)	はじめての能楽大会	13:00	岡山後楽園能舞台	無料	能学習発表・鑑賞
11月20日(日)	第248回 大島能楽堂定期公演	12:30	大島能楽堂	年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能 「巻 絹」 大島政允 狂言 「棒縛り」 茂山千五郎 能 「昭 君」 大島輝久
11月23日(祝)	広 島 大 島 会	11:00	妙 慶 院	無料	素謡・仕舞等
12月18日(日)	喜多流職分自主公演	12:00	東京喜多能楽堂	一般券 6,000円	能 「車 僧」 大島輝久
12月23日(祝)	大島久見13回忌追善能	12:30	大島能楽堂	正面指定席 12,000円 中階指定席 10,000円 2階自由席 6,000円 補助指定席 発売中	能 「経 政」 大島伊織 狂言 「鎌 腹」 茂山千作 能 「道成寺」 大島衣恵

2017年

展示『伝え・継ぐ ～新作能「福山」の世界』 11月12日(土)～12月19日(月) 神辺図書館

1月 2日(月)	初 謡 「 福 山 」	13:00	福 山 城 湯 殿	参加費 500円	みんなで謡いましょう! 「福山」
1月 3日(火)	新 春 能 楽 祭	12:00	沼 名 前 神 社	無料	素謡 「 翁 」 奉納
1月15日(日)	喜多流新年初謡会	11:00	喜多流大島能楽堂	無料	仕舞・素謡
2月 4日(土)	瀬戸内文化のにぎわい	13:30	アステールプラザ能舞台	700円	能楽ワークショップ
3月 4日(土)	日韓伝統芸能 フォーラム花舞台 in 福山	10:30 14:00	鞆 公 民 館 沼名前神社能舞台	無料 要申込み 無料	韓国伝統芸能 講師 李 柄 玉 韓国舞踊 辛 恩 珠 能楽 大島衣恵
3月26日(日)	宗 吉 史 跡 能	16:00	三 豊 市 宗 吉 窯 跡	無料	能舞 「西王母」 大島衣恵
4月30日(日)	第250回記念 大島能楽堂定期公演	12:30	大島能楽堂	年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	半能 「高 砂」 大島衣恵 狂言 「未 定」 野村萬斎 能 「鞍馬天狗」 大島輝久
5月21日(日)	喜 多 流 春 の 会	11:00	喜多流大島能楽堂	無料	舞囃子・仕舞・素謡等
6月 3日(土)	燦 の 会	14:00	東京喜多能楽堂	S席 6,000円 A席 5,000円 B席 4,000円	能 「歌 占」 大島輝久
6月18日(日)	第251回 大島能楽堂定期公演	12:30	大島能楽堂	年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能 「頼 政」 大島政允 能 「山 姥」 松井彬
9月17日(日)	第252回 大島能楽堂定期公演	12:30	大島能楽堂	年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能 「井 筒」 大島衣恵 能 「大 会」 金子敬一郎
11月19日(日)	第253回 大島能楽堂定期公演	12:30	大島能楽堂	年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能 「蟬 丸」 大島政允 大島輝久 能 「 鶴 」 大島衣恵
11月26日(日)	喜 多 流 自 主 公 演	12:00	東京喜多能楽堂 (全席指定席要予約)	年間優待券5回分 35,000円	能 「小鍛冶」白頭 大島輝久

福山能楽堂

- 能楽界、大島家にとっても大切な方との突然の悲しいお別れがありました。6月1日、森田流笛方の帆足正規師。7月24日、喜多流シテ方の狩野鶴鷹氏。能楽を深く愛し、死の直前までお舞台を勤められましたお二人に心より哀悼の意を表します。
- 新作能「福山」初演会、リーデンローズの大ホールに1600余人のお客様をお迎えして、福山市市制施行100周年記念事業を無事終えることが出来ました。ご来場くださいました皆様、ご出演頂きました皆様、ご協力頂きました関係各位に深く御礼を申し上げます。
- 写真家の森田拾史郎氏が仕舞の写真集を出版されました。森田氏の写真は能の持つ秘めた力を余すことなく表現されていて、いつも楽しみに拝見しています。この度の写真集には各流の著名な方々、喜多流の懐かしい方々、友枝喜久夫師、16世喜多六平太師、義父大島久見と何と輝久までもが掲載して頂いています。誠に光栄なことです!! (大島泰子)

